

沖縄県におけるCSFの患畜の確認（国内52例目）について

本日、沖縄県うるま市の農場においてCSFの患畜が確認されました。
本病の防疫措置等について万全を期します。
現場での取材は、本病のまん延を引き起こすおそれがあることなどから厳に慎むよう御協力をお願いいたします。

1. 発生農場の概要

所在地：沖縄県うるま市
飼養状況：393頭

2. 経緯

- (1) 沖縄県は、1月6日（月曜日）、農場から、飼養豚が死亡しているとの報告を受け、家畜防疫員による立入検査を実施しました。
- (2) 家畜保健衛生所での検査によりCSFの疑いが生じたため、材料を農研機構動物衛生研究部門（注）に送付し、遺伝子解析を実施したところ、1月8日（水曜日）、CSFの患畜であることが判明しました。
- （注）我が国唯一の動物衛生に関する専門研究機関
- (3) このため、当該農場の飼養豚について防疫措置を講じるとともに、当該農場と飼養管理者が同一である農場（同県うるま市）の飼養豚もCSFの疑似患畜とし、防疫措置を講じます（防疫措置対象：825頭（1戸2農場））。

3. 今後の対応

- 「CSFに関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき、以下の防疫措置等について万全を期します。
- (1) 当該農場の飼養豚の殺処分及び焼埋却等の必要な防疫措置を迅速かつ的確に実施します。
- (2) 感染拡大防止のため、発生農場周辺の消毒を強化し、主要道に消毒ポイントを設置します。
- (3) 感染経路等の究明のため、国の疫学調査チームを派遣します。
- (4) 本病の早期発見及び早期通報の徹底を図ります。
- (5) 関係府省と十分連携を図るとともに、生産者、消費者、流通業者等への正確な情報の提供に努めます。
- (6) 農場の消毒や野生動物の農場への侵入防止等の飼養衛生管理基準の遵守に関する指導を徹底します。
- (7) 感染経路等の究明及びまん延防止のため、あらゆる可能性を想定し調査します。

4. その他

- (1) CSFは、豚、いのししの病気であり、人に感染することはありません。
- (2) 現場での取材は、本病のまん延を引き起こすおそれがあること、農家の方のプライバシーを侵害するおそれがあることなどから厳に慎むよう御協力をお願いいたします。特に、ヘリコプターを使用する取材は防疫作業の妨げとなるため、厳に慎むようお願いいたします。
- (3) 今後とも、迅速で正確な情報提供に努めますので、生産者等の関係者や消費者は根拠のない噂などにより混乱することがないように、御協力をお願いいたします。

【お問合せ先】

消費・安全局動物衛生課

担当者：山野、下平

代表：03-3502-8111（内線4582）

ダイヤルイン：03-3502-8292

FAX：03-5512-2293